

GIP-TRIAD

Newsletter

Dec. 2016

Vol.

5

CONTENTS

1 はじめに

2 活動紹介

- …… TGSW2016ー国際バイオアントレプレナーシップ
トレーニング
- …… TGSW2016ーGLiD (Growth & Learning identification
powered by Instructional Design)
- …… 第5回グローバルイノベーション学位プログラムジョイントミーティング
ー5th International Conference for Global innovation Joint-Degree Programー
- …… TGSW2016ーボルドーカフェ
- …… 台湾文化ウィーク
- …… 10月入学ー留学生オリエンテーション (生物資源科学専攻)
- …… フランス国立農学研究所 (INRA) 国際部長・Robert Habib 氏が
筑波大学・遺伝子実験センターを訪問
- …… 国立台湾大学生物資源・農学院において筑波大学生命環境学群
生物資源学類との遠隔授業の開講に向けて
- …… 筑波大学生命環境科学研究科生物資源科学専攻グローバルフード
セキュリティコース国立台湾大学との修士課程ダブルディグリー
プログラム (DDP) における学生の派遣および受入
- …… ボルドー市において本学学生の企画で
留学生キャリア支援セミナーを開催
- …… 国立台湾大学ー京都大学ー筑波大学の遠隔講義
- …… 海外留学フェア2016 in つくば、台湾、ボルドー

3 編集後記



1 / はじめに

2016年9月20日に本学で開催されたGIP-TRIADジョイントミーティングも第5回となり、グローバルイノベーション学位プログラム（GIP-TRIAD）の開設準備も佳境を迎えております。また、本学協定校である国立台湾大学、ボルドー大学と実施している生物資源科学専攻・グローバルフードセキュリティコース（ダブルディグリープログラム）も2年目に入り本格的に動き出し、共同研究、交換留学に留まらず多様な国際交流プログラムを通じた学生の相互派遣がより活発になっております。

GIP-TRIADニュースレター第5号では、本学において毎年開催しているTsukuba Global Science Week (TGSW) およびGIP-TRIADジョイントミーティングの報告を中心に本学、国立台湾大学、ボルドー大学の国際交流イベント、学生の活動状況について紹介いたします。

2 / 活動紹介

… TGSW2016ー国際バイオアントレプレナーシップトレーニング

国際的な視野をもったバイオアントレプレナーシップのトレーニングは、産官学の連携とイノベーション創出の鍵として近年注目されています。本セッションでは、ヒューマンバイオロジー学位プログラム（HBP）、グローバルイノベーション学位プログラム（GIP-TRIAD）が、筑波大学の各国海外オフィスと共同で、バイオアントレプレナーシップの涵養を試みました。

各国講師陣による世界中のバイオアントレプレナー事情に関する講演、学生によるバイオベンチャー起業案のプレゼンコンペを実施しました。各国講師陣を招聘し、日本からは、竹本佳弘先生（東京医科歯科大学）より、日本のアントレプレナーの歴史とともに、これからのアントレプレナーに要求される事についてご講演いただきました。台湾からはNing-Sing Shaw先生（国立台湾大学）より、国立台湾大学で実施しているアントレプレナー教育の詳細についてご紹介いただきました。Elliot Botvinick先生（UCI:カリフォルニア大学アーバイン校）より、UCIでのインキュベーション、産学連携、アントレプレナー教育の現状をご紹介いただきました。Julio Cesar Ferreira先生（サンパウロ大学）からは、ブラジル、サンパウロ、サンパウロ大学における起業状況および大学での活動をご紹介いただきました。GIP-TRIADの教員であるDominique Rolin先生（ボルドー大学）からは、ボルドー大学修士課程におけるアントレプレナー教育の現状、欧州大学の特徴である企業と連携したインターンシップ教育の取り組みについてご紹介いただきました。

学生によるバイオベンチャー起業案のプレゼンコンペにおいては、各国学生より、自身の考える企業案を中心に発表していただきました。セッションに参加した教員（日本人、外国人）へ発表のスコア表を配布し、それぞれの学生の発表するアイデアについて評価を行いました。Rachel Gurlinさん（UCI）の発表がベストスコアとなり、Best Entrepreneur賞を受賞しました。最後に欧州アグリビジネス企業2社（MAÏSADOUR SEMENCES: Antoine Gaillard氏、Arysta Life Sciences: 古川洋史氏）より、ボルドー大学との教育連携の取り組み・経緯についてご紹介いただきました。質疑応答が活発に行われ、各国のアントレプレナーシップ教育の現状、取り組みを知る良い機会となりました。



上：澁谷彰HBPプログラム長からの挨拶
下：Dominique Rolin教授



セッションの様子



熊谷GIP準備室長から学生表彰



集合写真

… TGSW2016-GLiD (Growth & Learning identification powered by Instructional Design)

筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学の3大学は、共同で運営するグローバルイノベーション学位プログラム（GIP-TRIAD）の開設に向け、平成26年度以降、国際会議を毎年開催し、準備を進めてきました。2016年9月20日に実施した第5回グローバルイノベーション学位プログラムジョイントミーティングに先立ち、学生教育評価システムに関するワークショップ（本セッション）を開催しました。GIP-TRIADでは、修士課程修了要件の1つとして、GLiD（Growth & Learning identification powered by Instructional Design）による達成度評価の結果が、所定の基準に達することを要求しています。GLiDは、Web ベースの学修成果評価ツールであり、先行するヒューマンバイオロジー学位プログラム及びフロンティア医科学専攻において既に導入されていますが、GIP-TRIADにおいてもそれをカスタマイズしたシステムを導入することによって、国際共同学位プログラムの学位の質保証を目指しています。本セッションにおいては、GLiDの開発者による説明があり、その後実際にGIP-TRIAD担当教員がシステムの体験を行い、意見交換することを通じて、開発者及びユーザー間の相互理解を深めました。前半において、参加者が各自パソコンを持参し、GLiDの開発者である株式会社ラーニング・イニシアティブの浅野高光氏から説明を受け、デモンストレーションを体験しました。参加したGIP-TRIAD担当教員にとっては、これまで導入を議論してきたシステムを学生の立場で入力、操作することで、実際の教育現場での運用を具体的にイメージすることが可能になりました。体験後、後半においては、特に国立台湾大学及びボルドー大学所属の教員から、評価者の教員の作業、専門的知識の評価の在り方、学生の入力する項目の変更の可能性、入力時の環境などについて活発な意見が出されました。

GIP-TRIADは、平成29年9月からの学生受入を予定しています。本セッションの開催により、3大学の教員間で課題を共有する良い機会となりました。



左上：セッションの様子、右上：GLiD開発者によるシステムの説明
左下、右下：実践後の意見交換の様子

… 第5回グローバルイノベーション学位プログラムジョイントミーティング —5th International Conference for Global innovation Joint-Degree Program—

2016年月9月20日にグローバルイノベーション学位プログラム（GIP-TRIAD）のジョイントミーティングが本学にて開催されました。本会議には当該プログラムに参画しているボルドー大学、国立台湾大学の関係者が集まり、3大学のジョイントディグリープログラム（JDP）であるGIP-TRIADの開設準備に関する協議が行われました。ボルドー大学からDominique Rolin教授、Thierry Noel教授、Michel Hernould教授、森健太郎准教授、国立台湾大学からHsinyu Lee教授、Tsai-Kun Li教授、Ming-Ju Chen教授、Chang-Chuan Chan教授、Han-Yi E. Chou准教授、Tang-Long Shen准教授、Chia-Yao Lin氏、Andrew Tsung氏、筑波大学から熊谷嘉人教授（GIP-TRIAD準備室長）、森川一也教授、松本正幸教授、市川



GIP-TRIAD ジョイントミーティング
左上：会議の趣旨を説明する熊谷GIP-TRIAD準備室長、右上、下：会議の様子

政雄教授、山岡裕一教授、江面浩教授、松倉千昭教授、大庭良介准教授、阿部淳一ピーター助教、赤澤暢彦助教、岡部佳弘助教、佐藤稔晃氏、石濱悟氏、元村彰雄氏、中上聡夫氏、松金ゆうこ氏、福島伸子氏、広瀬玲子氏が出席しました。

会議前の午前中に、GIP-TRIADの教職員、学生が利用予定の筑波キャンパス（改修工事が完了した医学エリアE棟）の施設見学を行いました。その後、昼食を挟み同日午後より、関係者が集まり会議が開催されました。冒頭において熊谷GIP-TRIAD準備室長より開催の挨拶ならびに本会議の趣旨について概要説明が行われました。各担当者よりカリキュラムデザイン、入試、協定書、企業インターンシップに関する事項について報告がありました。その後、Rolin教授による本会議の議題についての確認が行われ、具体的な学位プログラムの運営体制、予想される課題、今後のスケジュールについて話し合いを行いました。前回ボルドーで開催されたジョイントミーティングに続き、本会議においても活発な議論が行われ有意義な会議となりました。



GIP-TRIAD ジョイントミーティング
会議出席者集合写真



キャンパスの施設見学

左上：熊谷研究室見学、中央上：医学系研究施設見学、右上：教員オフィス
左下：国際共同教育ラポ表札、中央下、右下：共用実験室内の様子

… TGSW2016-ボルドーカフェ

2016年9月18日にTGSW2016において、ボルドー大学の主催による産学連携をテーマとしたボルドーカフェが開催されました。まず、Vincent Dousset国際担当副学長よりボルドー大学における産学連携の取り組みに関する紹介がありました。その後、ボルドー大学 Dominique Rolin 教授、Michel Hernould 教授、フランスの農業企業大手 MAÏSADOUR SEMENCES 研究ディレクター・Antoine Gaillard氏によるトークセッションが行われました。MAÏSADOUR SEMENCES はボルドー大学の修士課程 Master Biology AgroSciences と学生インターンシップの受け入れ等で長年連携しており、フランスにおける大学・企業連携の在り方について興味深い話を聞くことができました。その後、



中央上：ボルドーカフェのポスター、ボルドー大学ブランドワイン、他：セッションの様子

ボルドー大学ブランドワインがボルドー産チーズ、同地方の伝統菓子カヌレとともに参加者へ振舞われ、ボルドー式学術交流の一端を体験する良い機会になったと考えられます。本セッションには、本学生物資源学類で開講している国際農業研修（ボルドー大学サマースクール）に参加した学類生も参加しており、ボルドー大学との交流に対する全学的な関心の高まりが窺えました。

… 台湾文化ウィーク

2016年9月16日ー20日、台湾文化ウィークがくば市において開催されました。オープニングで振る舞われた国立台湾大学ブランドの凍頂烏龍茶の試飲、台湾名物のパイナップルケーキの試食には、連日多くの来場者が訪れ、お茶の香りを楽しみながら、台湾の写真や台湾人留学生による書や絵画、国立台湾大学、国立成功大学などの台湾の大学、企業の展示など台湾の文化に親しみました。展示以外にも、2つの市民講座「知られざる台湾」、「台湾語講座」及び、台湾に造詣の深い直木賞作家・乃南アサ氏によるトークショー、台湾の新興閣掌中劇団による人形劇、関東地域台湾人医師団体による台湾の歌の合唱と、多岐にわたるイベントが行われ、その全てが満席となる盛況ぶりとなりました。

台湾文化ウィークには、期間中延べ1,500人以上が来場し、多くの方に台湾の魅力を味わっていただけた大変良い機会となりました。



台湾文化ウィークの様子



左：オープニング集合写真、右：台湾文化ウィークポスター

… 10月入学ー留学生オリエンテーション（生物資源科学専攻）

2016年9月30日に生命環境科学研究科・生物資源科学専攻において、10月入学の留学生を対象としたオリエンテーションが開催されました。冒頭において山岡裕一専攻長より歓迎の挨拶があり、その後、専攻の各プログラムの概要説明が行われました。国際共同農業研究エキスパート養成プログラム、グローバルフードセキュリティーコース（ダブルディグリープログラム）のカリキュラム等に関する説明がTofael Ahamed准教授、市川創作教授よりそれぞれ行われました。続いて、新入生およびチューターの学生より自己紹介が行われました。この日の夕方より、新入生および在学中の留学生、関係教職員が集まり歓迎会が開催されました。



左上：専攻の概要を説明する山岡専攻長

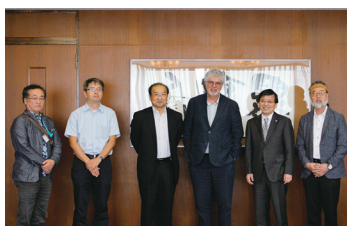
中央上、右上：各プログラムのカリキュラムを紹介するTofael Ahamed准教授、市川創作教授

左下：新入生およびチューターの学生の自己紹介の様子、中央下：集合写真、右下：新入生歓迎会の様子

… フランス国立農学研究所 (INRA) 国際部長・Robert Habib氏が筑波大学・遺伝子実験センターを訪問

2016年9月30日、フランス国立農学研究所 (INRA) 国際部長・Robert Habib博士が農研機構・国際室長永井卓氏と共に本学を訪問し、三明康郎副学長 (研究担当) を表敬訪問しました。その後、遺伝子実験センターを視察し、江面浩教授 (遺伝子実験センター長)、河瀬真琴教授 (グローバル・コモンズ機構・国際交流支援部門長)、渡邊和男教授、松倉千昭教授、岡部佳弘助教と懇談しました。また、江面浩教授、松倉教授よりINRAボルドーセンターと遺伝子実験センターの国際連携の経緯、国際ジョイントラボの活動状況について、また、渡邊和男教授より当センターの遺伝子組換え体評価施設について紹介があり、今後の連携推進等について意見交換を行いました。

遺伝子実験センターは、INRAボルドーセンターと2008年よりトマト研究を中核とした国際ジョイントラボを開設しており、学生、研究員、教員等の研究交流・人材交流を積極的に推進してきました。また、2015年4月より生命環境科学研究科 生物資源科学専攻においてダブルディグリープログラム・グローバルフードセキュリティコースを開始しており、教育活動の連携強化に努めています。これら国際連携体制を更に強化するため、現在、本学、INRAにボルドー大学を加えた3機関による“International Associated Laboratory (LIA)” の設置準備を進めています。これらの取り組みにより、国際研究・教育活動の益々の活性化が期待されます。



左上：三明副学長を表敬訪問

(三明康郎副学長 [右から2番目]、左から河瀬真琴教授、松倉千昭教授、江面浩遺伝子実験センター長、Robert Habib氏、永井卓氏)

右上：意見交換の様子

左下：遺伝子実験センター前にて

(左から河瀬真琴教授、江面浩遺伝子実験センター長、松倉千昭教授、Robert Habib氏、永井卓氏)

右下：遺伝子実験センター視察 (施設の説明をする渡邊和男教授と関係者)

… 国立台湾大学生物資源・農学院において筑波大学生命環境学群生物資源学類との遠隔授業の開講に向けて

北村豊学類長、江前敏晴教授 (教務担当)、阿部淳一ピーター助教 (台湾交流担当) の3名で10月20日～22日に国立台湾大学生物資源・農学院を訪問しました。初日、台湾大学において開設している遠隔授業の施設見学を行いました。その翌日、台湾大学4学科の学科長、教務担当教員、本学台湾オフィス所長・大庭良介准教授を交えて、具体的な遠隔授業の開講に向けて打ち合わせを行いました。打ち合わせの結果、今年度内に1学科と遠隔授業 (集中講義) の開講が決定し、他の3学科についても次年度より開講予定となりました。



国立台湾大学4学科との打ち合わせ会合の集合写真

… 筑波大学生命環境科学研究科生物資源科学専攻グローバルフードセキュリティコース国立台湾大学との修士課程ダブルディグリープログラム (DDP) における学生の派遣および受入

国立台湾大学とのDDPにおいて本学第1期生となるDDP 学生3名が、9月上旬より国立台湾大学に留学をしています。これから1年間に渡り、国立台湾大学における指導教員のもと、修士論文研究を



筑波大学DDP学生3人との台北市内での昼食会 (左から大庭、渡部、阿部、北村、井原、江前、森井)

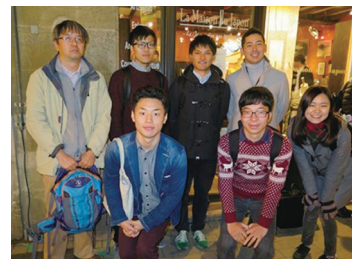
行うと共に、国立台湾大学で開設されている修士プログラムに参加します。また、9月29日と10月3日に本年度の本コースの国立台湾大学DDP学生の合同最終選抜試験を実施し、2017年4月より国立台湾大生3名をDDP第2期生として本学において受け入れることを決定しました。GIP-TRIADは、本学台湾オフィスと連携してこれらの活動を全面的にサポートしていく予定です。

… ボルドー市において本学学生の企画で留学生キャリア支援セミナーを開催

生物資源科学専攻グローバルフードセキュリティコース（前期専攻ダブルディグリープログラム）でボルドー大学に滞在中の浅地真木君（当専攻2年次生）の企画・運営により、2016年11月5、6日の両日、ボルドー市内において日本人留学生対象のキャリア支援セミナーを開催しました。講師に株式会社Cubridge代表取締役 中西文太氏をお招きし、5日は留学生が直面する就職活動の課題等について講演をして頂く



左：中西氏による講演



右：初日セミナー終了後、日本館の前で〔後列右端より（株）Cubridge中西文太氏、左隣が当該セミナーを企画した浅地真木君〕

と共に、海外留学に関するグループディスカッションを行いました。6日は市内ホテルのラウンジを利用して模擬採用面接を行いました。当日は本学の留学生3名を含む、ボルドー大学、ボルドー・モンテーニュ大学に留学中の日本人留学生14人が参加し、活発なディスカッションが繰り広げられました。また、模擬採用面接では、学生が交代で面接員を務めるなど、学生の就職活動に非常に有意義なセミナーになったのではないかと考えられます。

GIPからは本学ボルドーオフィス駐在教員の松倉千昭教授（生命環境系）が参加し、運営の支援を行いました。また、セミナー終了後、中西氏と海外留学日本人学生の就職活動や課題について意見交換すると共に、GIP-TRIADの概要紹介と企業インターンシップへの協力依頼を行いました。

なお、5日のセミナーについては日本館（La Maison du Japon）オーナー・進藤武則氏のご厚意により、同館のセミナー室を使用させて頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

… 国立台湾大学－京都大学－筑波大学の遠隔講義

2016年10月1日より、国立台湾大学－京都大学－筑波大学との遠隔講義、ガンの生物学をテーマとして2016年秋学期が開講されました。



筑波大学における遠隔講義の様子

… 海外留学フェア2016 in つくば、台湾、ボルドー

秋学期に入り、筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学の各大学において、毎年恒例となりつつある海外留学フェアが開催されました。筑波大学では、10月19日に留学フェア2016において、ボルドーオフィス、台湾オフィスがブースを出展しました。ボルドーのブースには、現在、ダブルディグリープログラムにおいて本学に留学中のボルドー大学学生にも協力いただき学生からの問い合わせの対応に当たりました。

台湾では、主に、バイリンガルコースを持つ高校を訪問し、英語プログラムなどの紹介をしました。台湾の説明会には、筑波大学に留学中の台湾留学生にもSkypeなどで登場いただき、筑波大学の魅力を学生視点から紹介していただきました。



海外留学フェア
(筑波大学) ポスター



ボルドー大学DDP学生と筑波大学DDP学生の対話



運営補助の本学学生



台湾における日本留学説明会の様子

2016年11月14－18日に、ボルドー大学においても、インターナショナルウィークが開催されました。筑波大学ボルドーオフィスもTalenceキャンパス（14日）、Victoire キャンパス（15日）、Carreireキャンパス（16日）、Pessacキャンパス（17日）に各々筑波大学のブースを設置し、大学紹介や留学相談を行いました。期間中、本学国際室よりJelena Glisic職員が派遣され、ボルドーオフィスと協働でブースの設置・運営を行いました。また、ボルドー大学に留学中の本学学生4名ならびに本学に留学経験のあるボルドー大学OBにも協力して頂き来訪者の対応に当たりました。期間中は約70名のボルドー大学、ボルドー・モンテーニュ大学の学生が本学ブースを訪れました。つくば市の立地や英語実施プログラムに関するものまで様々な質問があり、日本留学への関心の高さが窺えました。並行して、11月14日にCarreireキャンパスにおいてMichel Hernould教授がGIP-TRIADの説明会を実施し、こちらにも20名近い学生の参加がありました。これらの取り組みによりボルドー大学、国立台湾大学との交流拡大、GIP-TRIADやダブルディグリープログラムに対する認知度の向上、新たな留学生やGIP-TRIAD入学希望者の獲得が期待されます。



左上：Talenceキャンパスにて運営補助の本学学生と
中央上：PCを使ってGIP-TRIADを紹介（Talence キャンパスにて）
右上：Carreireキャンパスにて運営補助の本学学生と
左下：留学希望者に資料を配布（Talenceキャンパスにて）

中央下：Victoireキャンパスにおける懇親会の様子（手前左よりVeronique Debord-Lazaroボルドー大学国際交流オフィスディレクター、Hélène Jacquet 同・研究・国際戦略室 次長、Jelena Glisic本学国際室CiC担当職員）

右下：ボルドー大学学生の質問に対応する本学学生（Pessac キャンパスにて）

3

編集後記

学群あるいは学類レベルでの学生の交換留学、共同研究による交流だけではなく、協定校とのDDPに参加する学生の相互派遣も活発になってきました。今後さらに修士、博士課程の共同学位プログラムに興味を持つ学生さんが増えることを期待します。引き続き、現地における本学駐在教員、学生、海外オフィスの情報をより一層充実させていく予定です。皆さまにとってより有益なニュースレターにしたいと考えておりますので、ご意見・ご要望等ございましたら、以下までご連絡をお願い致します。

筑波大学 生命環境系 助教 岡部佳弘

【連絡先】 E-mail: okabe.yoshihiro.gp@u.tsukuba.ac.jp / Tel: 029-853-6005